

特別講演

行政管理栄養士による国保特定健診後の重症化予防への支援 ～ 指導から支援へ 中年独身男性症例を中心に ～

広仁堂医院

百瀬 篤

塩尻市役所 健康づくり課 管理栄養士

六井 愛 進藤祐里 瀧本友里加 吉江沙織 畠中美奈子 小澤真由美

国民健康保険（国保）被保険者は自営業や無職の方が多く、コロナ禍もあり経済的に厳しい状況にある。独身者も多く、糖尿病や心臓病などの基礎疾患があっても周囲の支援を得にくい状況も見受けられる。現在、塩尻市では糖尿病性腎症重症化予防に力を入れており、対象者は特定健診の結果から選択している。本事業では、1年間に亘り無料で行政管理栄養士からの指導・支援が受けられる。現場の医師の立場からは本事業により「管理栄養士による長期の継続的指導・支援が受けられれば病状の改善が期待できるのに」と感じている症例も多い。

今回、塩筑医師会理事会の承認を得た上で、当院通院中患者さんから、糖尿病コントロール不良例や心臓病・脳血管罹患症例を、2020年10例、2021年3例選択し、重症化予防指導・支援を試験的に実施した。本日は、糖尿病治療中の中年独身男性7例について報告する。

「2型糖尿病の環境因子の相当の部分は社会経済的要因によるものであることが明らかになっている」といわれている。本事業では、自宅訪問など多様な方法で長期に対応できるため、食事指導だけでなく生活状況の把握など社会経済状況も考慮した支援が可能であった。尚、2021年度対象症例には、精神障がい例、身体障がい例が含まれている。これらの症例では、現在、国が積極的に勧めている「多職種連携」「地域包括ケア」にも直結しており、かつ他職種では得られなかった重大な情報が管理栄養士よりもたらされるなど、当初、予想もしていなかった効果が認められている。日本糖尿病協会では、患者さんに対して「指導」という言葉は使用せず、今後は、「支援・教育」とする方向で検討中である。今回の重症化予防も、「指導」より「支援」と呼ぶのがふさわしい事業と考えられる。

尚、本事業はまだ試験段階であり、対象症例の選択方法、情報共有方法など更に検討した上で、継続的に実施できる体制を模索中である。

第 16 回信州公衆衛生学会総会 特別講演【公開講座】

百瀬 篤（ももせ あつし） 略歴

1981 年 弘前大学医学部卒業

同年 弘前大学第二内科入局

・循環器グループに所属

1984 年 佐久市立国保浅間総合病院内科医長

・循環器疾患を中心に診療

1994 年 心泉会 上條記念病院 内科科長

1995 年 同院 副院長

・上條記念病院就任時より糖尿病診療科開始

1997 年 広仁堂医院院長

・糖尿病、循環器疾患を中心に診療

2000 年より、相澤健康センター医師併任中

日本糖尿病学会認定糖尿病専門医

日本循環器学会認定循環器専門医

塩尻市在宅医療介護連携推進協議会会長

塩尻市国保運営協議会委員